

コミュニティにおける非公式な秩序の維持について
～地下アイドルにおける最前管理の事例を用いて～

山中悠加
指導教員 朝岡孝平

研究背景

本来、整理番号順に好きな場所へ立てるはずのライブにおいて、地下アイドル現場では「最前管理」と呼ばれる非公式のルールが存在し、多くの会場で黙認されている。この慣習は摩擦やトラブルの要因にもなっていることから、賛否が分かれている。それでも続いている点を踏まえ、本研究では、この慣習がどのように維持されているのかを明らかにするため研究を行った。

研究目的

本研究の目的は、整理番号という公式ルールがあるにもかかわらず、地下アイドル現場で「最前管理」という非公式なルールが維持されている理由を明らかにすることである。

研究方法

本研究では、「最前管理」の実態を把握するため、地下アイドルファン9名に半構造化インタビューを行った。対象は、最前管理を行う立場・疑問を持つ立場・中立的立場の3区分から各3名を選び、質問は、①最前管理の認識②ルールの共有過程③行動の動機や意味の3点に整理した。得られた回答は理論的枠組みに照らして検討し、最前管理がどのように維持されているのかを分析した。

分析結果

インタビューの結果、「最前管理」は単独の要因ではなく、複数の社会的・文化的プロセスが組み合わさって成立している慣習であることが明らかになった。肯定派は努力の正当な報酬や安全確保として受け止め、否定派は不公平感や排他的な側面を指摘していた。また最前に立つことは推しへの熱量やコミュニティ内の立場を示す手段として機能し、自己呈示と模倣によって維持されていたことがわかった。

考察・結論

地下アイドル現場における最前管理が、固定的なルールではなく、状況に応じた判断と自己呈示を通じて正当化され、維持されていることを明らかにした。この結果は、ファン行動を問題行動としてではなく、相互評価に基づく文化的実践として捉える視点を示している。また、ファンを熱量の高い消費者として理解する上での示唆を与える。一方で、調査対象が地下アイドルに限定され、時間的変化を十分に扱えていない点が限界である。